

# 第11回八戸市中心市街地活性化協議会 議事録

1. 開催年月日 平成22年11月25日(木) 14:00～15:07
2. 開催場所 八戸商工会館3階ホール
3. 出席者数 

(1)委員	24名
(2)オブザーバー	3名
(3)事務局	9名(タウンマネージャー含む)
(4)八戸市	5名

## 4. 議事の概要

事務局から開会を宣し、会長の交代について、規約第12条第2項により、会長は八戸商工会議所会頭をもって充てることから、八戸商工会議所の役員改選に伴い、橋本会頭から福島会頭に交代したため、当協議会会長も福島会長に交代になる旨報告した。また、事務局から規約第14条により、委員37名のうち24名が出席したことから定足数を満たし、協議会として成立する旨報告した後、変更になった委員として、八戸商工会議所 山内専務理事、青森銀行 蓼内支店長を紹介した。その後、会長が議長となり議事に入った。

### 第1号議案 会長の交代及び幹事の指名について

会長の交代については、会議冒頭で報告したため、幹事の指名について報告した。事務局より、規約第16条第2項により、幹事会は、委員及び会長が必要と認める者の中から会長が指名する者をもって組織することから、小嶋誠一氏に代わり、新たに八戸商工会議所 山内専務理事を幹事に指名する旨報告した。

### 第2号議案 八戸市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について

八戸市より、八戸市中心市街地活性化基本計画の変更並びに47事業の進捗状況について説明した。

### 第3号議案 専門部会の活動状況について

事務局より、空き床対策検討部会、交通アクセス検討部会、花小路整備部会の活動状況について説明した。

### 第4号議案 大規模小売店舗立地法の特例区域について

八戸市より、特例区域の指定は、八戸市中心市街地活性化基本計画の事業として位置付けられており、同計画の認定区域において、店舗面積1,000㎡を超える大規模小売店舗を新設等する際に必要となる手続き緩和することで、中心市街地への大規模小売店舗の誘致を促進するもので、三日町、六日町、八日町、十三日町、十六日町内で店舗にかかる延床面積が1,000㎡以上の建物、又は以前に1,000㎡以上であった建物が立地する土地を指定。営業形態に応じて、第一種特例区域＝現在営業している既存店舗、第二種特例区域＝現在営業していない建物(空き店舗)の2種類を指定する旨説明した。

第5号議案 八戸ポータルミュージアム「はっち」について

八戸市より、八戸ポータルミュージアム「はっち」のオープニングイベントの内容について説明した。

第6号議案 中心市街地歩行者通行量の調査結果について

事務局より、はちのへほコテンの際に実施した中心市街地歩行者通行量の調査結果について説明した。

第7号議案 その他

八戸市より、「はちのへ冬灯り」について、説明した。議場にその他に関して意見を求めたところ、下記のとおり発言があった。

(蛇口副会長)

「はっち」について、継続的にお客を呼び込むためには、民間的な発想が必要だと思う。

(八戸市)

文化創造部門、観光部門、ものづくり・広報部門の各ディレクターは民間の方をお願いしている。ディレクターと一緒に事業を組み立てながら実施して行きたいと考えている。

(蛇口副会長)

民間の発想をどんどん使っていく方向で、中身を濃くするような工夫をしてもらいたい。

(小林タウンマネージャー)

例えば、貸館事業について、具体的にどのようなところから申込みがあるのか示してもらえるとわかりやすい。

(八戸市)

貸館事業については、来年12月までの予約が可能ということでPRしているが、建物がまだ出来上がっていない中で、PRが徹底されていない部分がある。現時点で、約30件の使用者の登録があり、ほぼ同数の申し込みをいただいている。具体的には、ピアノの演奏会、展覧会、ファッションショーなど。「はっち」がオープンして、市民の方が足を運んでいただければ、貸館事業の申し込みは増えていくものと期待している。

(高谷委員)

「はっち」が賑わうのも大事だが、お客さんが「はっち」を出た後、商店に寄って買い物をしてもらうのが本来の目的である。中心市街地が賑わうために「はっち」があって、それにコラボレーションする形で、各商店街が様々な知恵と企画を出して、来街者を温かく迎えることが大事である。商店街も「はっち」と連携して、街全体で何かをやっていかないと物足りない。「はっち」のオープン以降、商店街としてどういったことをやっていくのか伺いたい。また、郊外のSCとの比較で、駐車場のことが言われるが、交通アクセス部会の駐車場経営者との懇談会で、駐車場経営者が意見交換会の中でどのようなことを述べているのか伺いたい。

(類家委員)

「はっち」のオープンに当たって、八戸中心商店街連絡協議会で、市民を歓迎するイベント的なもの、「はっち」を迎えるための事業を実施することで、会議所と打ち合わせをしている。中身についてはまだ確定していないが、いくつか案は出てきている。

(小林タウンマネージャー)

2月1日ぐらいから「はっち」を歓迎するようなことを、各商店街がセールやサービス等でどう表していくのか、また、オープン当日とそれ以降はどうするのか。商店街が連合してやるのか、単独でそれぞれにやっていくのか、現在まとめているところである。

駐車場については、来街者の駐車場利用を促進していきたいという考えでは一致するが、30分または1時間を無料となると、駐車場個々の考えはあるようだが、まとめて実施するという方向にはまだ至っていない。現実問題として、駐車場経営が苦しい状況がかなり顕著になっており、2月11日の「はっち」オープンに間に合うかどうかはわからないが、全体的に駐車場サービスを強化して行こうという方向には向かっていくと思う。

(高谷委員)

リピーターをいかに増やすかが大事である。駐車場の問題もいろいろあるが、中心街にきてよかったという印象を持たせることが大事なので、いろいろ工夫をして、中心街に何回もきてもらうようにしてもらいたい。

(事務局)

「はっち」については、三社大祭の山車を展示するスペースも、お祭期間の7月から8月を除いて、普段はいろいろな形で使える。そのスペースの活用について、賑わい性を持たせるような、お客さんを呼び込めるような事業がいろいろ考えられる。例えば、中心街にない業種のお店にスペースを提供し、即売会を実施する等、今後考えていく必要がある。また、まちの駅も移転し、「はっち」と連動しながら、回遊性を高める形で事業を展開していきたい。

(小林タウンマネージャー)

空き床について、八戸中心街ターミナルモビリティセンターを含め、ここ一年で9箇所店舗や事務所がオープンした。しかし、それ以上に空き床が増えているのが現状で、新規出店は難航しているが、来年「はっち」オープンで中心街に賑わいがあるうちに成果に結び付けたい。また、近隣市町村から有名店、人気店を誘致できないか、現在検討中である。

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、15時07分に閉会した。